

山形県病院事業中期経営計画の取組状況の外部評価結果について

平成28年10月25日

山形県病院事業局

山形県では、平成27年度から平成29年度の3カ年を計画期間とする「山形県病院事業中期経営計画」を策定し、「県民に安心・信頼・高度の医療を提供し、県民医療を守り支える」というミッションについて、「運営基盤を強化し、時代が求める医療ニーズに応じていく」というビジョンを定め、医療体制の充実と経営の効率化に努めてまいりました。

平成27年度の取組みについては、各県立病院長などで構成する病院事業管理者会議を中心に点検・評価を実施し、「山形県病院事業中期経営計画点検・評価報告書」として取りまとめ、平成28年9月に公表したところです。

この報告書の内容について、さらに専門的な見地及び県民の視点から客観的な評価を行うため、外部委員による点検・評価を平成28年9月27日に実施いたしました。

委員からは、医療の質の向上、県民から信頼される病院運営及び経営の健全化の推進などの視点から貴重な意見や提言をいただきました。その主なものは下記のとおりです。

いただいた御意見を参考として、今後とも一層の改善に努めてまいります。

1 外部評価委員

氏名	団体・職名
吉岡 信弥	山形県医師会常任理事
是川 晴彦	山形大学人文学部教授
伊関 友伸	城西大学経営学部教授
野口比呂美	やまがた育児サークルランド代表

2 主な意見等

○是川委員

- ・ 公共サービスがもつ特殊性があるなかで、県立病院は民間医療機関では供給できない医療を供給しており、救急などへの取り組みを評価する。
- ・ 退職手当を除いた人件費比率はそれほど高くなく、効率が悪いというわけではない。
- ・ 退院後のケアは重要である。開業医と連携した地域医療の機能を検討してみてもどうか。また、他の医療機関にはない県立病院の機能を検討してみてもどうか。
- ・ 県立病院が提供しているサービスやその効果など、公的資金投入の意義を県民に説明していくべき。また、採算を考えた時、収益の低さが効率の低さと同義ではない。収益性の高い部分から低い部分への内部補助の考え方は必要。

○野口委員

- ・平成27年度の赤字は退職給付引当金の積み増しによる一時的なものと思う。V字回復を期待する。
- ・県立病院への県民の期待は大きい。中でも新庄病院、河北病院は地域の中心だと思うので、地域の活力づくりをお願いしたい。
- ・少子化対策として、産前産後の切れ目ないケアが必要。生まれる前からの対応が求められている。都会では産む場所探しから苦勞する。公立病院として体制づくりをしていただくことを期待する。

○吉岡委員

- ・病院経営の経験上、医師が医療的提案をして事務方がその数字の裏付けをとりながら、お互いが相談して仕事をすれば、病院の経営は安定すると思う。
- ・民間病院でも、医師は自身の診療行為が何点になるか、そのためのコストはどうなっているかなどを勉強している。医師が経営を意識することは必要である。
- ・医師は一所懸命にやっているが、雑務的な仕事も多い。医師に医師本来の仕事をさせれば、もっと収益が伸びるのではないか。医師が自分の本来の仕事に専念できる体制を整えるよう、方策が必要。

○伊関委員

- ・手持ち現金がないのは問題。投資ができない。20～30億円はないと支障が出る。厚生労働省による今の方針では、高度医療を提供する病院は地域の2番目、3番目では生き残れない仕組みだと思う。投資は必要。計画的に行うべき。
- ・内科、麻酔、脳外科は医師が足りていない。例えば大学に寄付講座を1億円で開設し、代わりに大学からの派遣を増やしてもらおうとか、そういう形で医師が足りない部分を補う方法もあるのではないか。
- ・中央病院がD P C II群であるというのはすごいことだと思う。診療報酬点数の加算をいかに増やすかが重要。総合入院体制加算2を目指すべき。
- ・新庄病院は研修医のマッチングが0件だった。医師の負担も大きいので、認定看護師を増やすなどの面に投資をしてはどうか。また、東北の病院は外側を立派に作り中身に力を注いでいないことが多い。建築費を安くし、病院内部を充実させていくべき。
- ・河北病院は収支が大変だが、特徴ある病院づくりをしており、近い将来、若い医師が集まる病院になると思う。
- ・こころの医療センターは新築し、児童・思春期入院医療や医療観察法への対応など時代になかった病院になっている。精神病院の黒字化は困難だが、その中で良くしようとしていると思う。この流れを保ってほしい。

以 上